

くまさんだより

日本基督教団 豊橋東田教会

〒440-0055 愛知県豊橋市前畠町 112 ☎0532-54-3435

公式サイト <https://azumada.org/> 中島 善子牧師

2026年
1月号

1月25日発行

イラストは全て池谷陽子さんご提供



1月18日 主日礼拝

「靈の結ぶ実は愛」中島 善子牧師
ガラテヤの信徒への手紙 5章16～26節

先週、信仰者に与えられている自由は「愛をもって互いに仕え合うため、隣人を自分のように愛するための自由」と聞いた。愛する時に自由は不可欠。強制されて嫌々ながら愛しても、愛したことにはならない。自由な意思と決断で愛してこそ愛。だから神は自由な者として人を創った。操られ、強制されるまま神を愛するのではなく、自発的に、心から神と愛し合うためだ。

でも最初の人アダムは、自由を、神を愛するためでなく、神に背を向けるために使った。それ以来、人の自由は「自分勝手、やりたい放題」の代名詞となって、誰も自由を、神の御心に適って使えなくなってしまった。

そこへキリストが来られた。キリストは、誕生から十字架の死に至るまで、愛するためにだけ自由を使うことによって、私達人間に「本来の自由」を回復してくださった。

愛するために自由を使うキリスト。私達はこのキリストを信じて、このキリストと1つに結ばれた。だからキリストと共に私達も、愛するために自由を使えるようにされたはず。なのに未だ私達にとって、自由を本来の意味で使うことは至難の業。私達の自由が、どうしても「肉の欲望」に引きずられてしまうからだ。

肉の欲望は「エゴ」(自己中)に言い換えられる。エゴは底なしの胃袋。決して満足しない。しかもエゴは自由を「自分のためにだけ欲しがる」。自由を手にした途端、エゴは怪物のように巨大化して、私達を食い尽くす。だからパウロはエゴの暴走を許さないため「靈の導きに従って歩みなさい」と教える(25節)。靈とは聖靈のこと。説教前に聖靈を求めて祈る。聖靈はキリストを私達に与えて下さる神。キリストの願い・力・愛。キリストご自身を私達に与えてくださる神が聖靈。聖靈に従うなら、エゴに引きずられることはないとパウロは言う。

エゴが突き進む方向と聖靈が導く方向は、正反対だ。もしエゴが導くままに進むなら、私達は神に背を向けて、どんどん自己中に突き進んで、自分を誇示することに貪欲になって行き、どんどん神から遠ざかって行ってしまう。

19節以下に、エゴに引きずられた無残な結末が「肉の業」として並ぶ。姦淫、わいせつ、好色などの性的な悪行。偶像礼拝、魔術などの宗教的な悪。敵意、争い、嫉み、怒り、利己心、不和、仲間争い、妬みなどの悪。更に泥酔、酒宴等の不摂生。

エゴに引きずられた肉の業はこれで終わらない。個人で、家庭で、企業で、国々で、様々な自己中の肉の業が、昔も今も氾濫している。しかも肉の業は互いに関連し、重なり合い、拡大しながら、国境を越え、紛争、環境破壊、生命倫理の破壊など、取り返しのつかない地球規模の悪となって、一人一人に襲いかかって来る。

パウロは「肉の業を行なう者は、神の国を受け継ぐことが出来ません」(21節)と、終わりの日の神の審きを告げた。要するに、自分が肉の業を行わなくとも、これを傍観し、黙認するなら、その責任を私達は、必ず神に問われることになる。

これに対し22節以下で「靈が結ぶ実」として、聖靈がもたらす賜物が列挙される。細かい話だが、「肉の業」は複数表記だが、「靈が結ぶ実」は幾つも並ぶが、単数表記。なぜなら「靈が結ぶ実」は、幾つあっても、すべてキリストだから。

愛、喜び、平和、寛容、善意、誠実、柔軟、節制。これらすべてがキリストを表している。色々な言葉で言い表しても、「靈が結ぶ実」はキリストであり、1つ。従って、「愛、寛容、誠実」。幾つ並んでも「靈が結ぶ実」は道徳や律法の行いとは違う。

「靈が結ぶ実」は人の努力や修行から生まれない。「靈が結ぶ実」が、ただ聖靈によって一方的に

与えられる贈り物だから。そして私達は聖霊の贈り物をただ喜び、受け取るだけ。これは「自分の力を頼みとする律法の業」とは全く無縁、全く別物。

聖霊は、私達にキリストを与えて、私達をキリストへと導く。そして神の御心に適った新しい人へと、私達を導く。それだけではなく聖霊は、私達の中にキリストを実らせてくださる。しかもそのキリストには「神が喜ぶ善きもの」が充满している。

なぜ神はそのような大盤振る舞いをするのか。キリストの豊かさを天に閉じ込めるのではなく、全地が埋め尽くされるほど実ることを、神が願うからだ。だから神は、一人一人にキリストが実ること、全地がキリストの実りで埋め尽くされることを、心から願って、昔も今も、教会に、私達に、聖霊を送り続けている。

私達にキリストが実ることを想像して欲しい。全地がキリストの畠となることを想像して欲しい。何と嬉しいことか。私達が自分をエゴではなく、聖霊に委ねる時、私達の内に、全地に、キリストという豊かな「霊の実り」が実現して行く。

聖霊とエゴは、私達の中で常に陣取り合戦をしている。聖霊は、神の言葉と共に私達に降り、私達にキリストを実らせようとする。でもエゴは悪玉コレステロールみたいに私達の信仰にこびりついて、聖霊の働きを妨げようとする。だから洗礼を受け、信仰者になって完成ではない。私達は聖霊を妨げ敵対する力に常に躊躇する。だからパウロも言った。「私は自分のしていることが分かりません。自分が望むことでは実行せず、かえって憎んでいることをするからです。……私は何と惨めな人間なのでしょう」(ローマ7:15-24)。パウロでさえ思い悩んだ。

でもパウロのように、自分に絶望する時、巨大化したエゴに、致命傷を与える。自分の弱さ、惨めさを認めて「自分で自分は救えない」と自分の力に絶望する時、私達のエゴが打ち砕かれる。(すごいパラドックスだが、これが真実)

今も聖霊とエゴが私達を戦場に闘っている。私達はどちらに加勢するのだろうか。どちらに向けて心を開き、どちらを選んで生きるのか。だけど神の御心は明らか。私達が聖霊によって、キリストと共に生きて、キリストに埋め尽くされ、キリストを持ち運ぶ器とされて行く。これが神の御心。そのため洗礼の原点を思い起こすことには意味がある。

「キリスト・イエスのものとなった人達は肉を、欲情や欲望もろとも、十字架につけてしまった」(24節)。これは洗礼のこと。私達はキリストを救い主と信じて、洗礼を受けた。洗礼は「エゴまみれ、自己中な古い自分が十字架で死んだ」ことを宣言する。だから、私達はエゴに引きずられて、死臭を放つ古い自分

に固執し、古い自分を再び身に着けるような愚かなマネをしてはならない。

信仰生活は「キリストが実って行く」幸いな生活。でも自力でキリストを実らせることは出来ない。とにかく礼拝で豊かに聖霊をいただく。そのために祈り、「聖霊の実りを拒むエゴを私から取り去ってください」と神の助けを祈り求めることが重要。また私達がキリストに埋め尽くされて、キリストを持ち運ぶ器とされることを願ってくださる神に、心から信頼して、聖霊の導きに従うことも重要。

パウロは聖霊の実りについて語った後、「うねぼれて、互いに挑み合ったり、妬み合ったりするのは止めましょう」(26節)と言う。ガラテヤ教会では靈感を受けて、自分の力を誇示する人々が問題を起こしていたようだ。

でも聖霊に導かれるることは、派手な奇跡を行い、声高に自己主張することではない。むしろ靈の結ぶ実はキリストだから、聖霊に導かれれば導かれる程、私達は忍耐強く静かに「愛する生活・キリストが宿る生活」へと専念して行く。

家庭が、喜びと平和と寛容で満たされたために、私達は家庭に愛を注ぎ続ける。職場が、善意と誠実で満たされたために、私達は職場に愛を注ぎ続ける。世界が愛と喜びと平和で満たされたために、裏切られても尚、私達は世界に愛を注ぎ続ける。

愛する生活は地味で誰もほめない。むしろ誤解され、泣いたりもする。でも聖霊に導かれた私達は愛することを止めない。キリストが私達に実りつつあるから。神と人を自由に愛し抜くキリストが、私達の中に実りつつあるから。

「私達は皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出しながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造り替えられて行きます。これは主の靈の働きによることです」(2コリント3:17-18)。

聖霊は信じる者に注がれ、そして地上にキリストが実った。教会だ。教会は地上を歩むキリストの体。私達の教会は元より、新しい年もすべての教会が「キリストの体」であるためには、常に聖霊の導きが欠かせない。だから教会のために、聖霊を求めて祈って欲しい。教会にキリストが実る時、その実りは、私達1人1人にも行き渡る。1人1人にキリストが実り出す。故に世界が肉の業ではなく「靈の結ぶ実・キリスト」で埋め尽くされるため私達は働く。これこそがキリストに倣う私達の、すべての人の自由な愛の生活。

聖書の言葉はすべて以下から引用しています。

聖書 新共同訳：

©共同訳聖書実行委員会

Executive Committee of The Common Bible Translation

©日本聖書協会

Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988